

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第13週)

(令和8年3月23日～令和8年3月29日)

令和8年4月2日

定点報告(上段: 定点当たり/下段: 報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		10週	11週	12週	13週	合計		
定点報告	インフルエンザ	10.33 31	6.67 20	2.67 8	1.33 4	— 570	— 2,558	— 1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0.67 2	1.33 4	1.00 3	2.00 6	— 100	— 1,139	— 3,622
	RSウイルス感染症	1.00 2	0.50 1	0.50 1	2.00 4	— 20	— 156	— 309
	咽頭結膜熱	— 0	— 0	— 0	— 0	— 2	— 78	— 337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.00 4	4.00 8	2.50 5	3.00 6	— 50	— 243	— 657
	感染性胃腸炎	2.50 5	7.00 14	— 0	2.00 4	— 97	— 430	— 610
	水痘	— 0	0.50 1	— 0	— 0	— 4	— 10	— 6
	手足口病	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 15	— 952
	伝染性紅斑	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 141	— 0
	突発性発しん	— 0	— 0	0.50 1	0.50 1	— 9	— 59	— 182
	ヘルパンギーナ	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 4	— 19
	流行性耳下腺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 1	— 10	— 13
	急性出血性結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	流行性角結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 2	— 9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	— 0	— 0	— 0	— 0	— 2	— 16	— 1
	クラミジア肺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	細菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	マイコプラズマ肺炎	— 0	1.00 1	2.00 2	1.00 1	— 10	— 42	— 16
	無菌性髄膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0
	インフルエンザ入院	— 0	2.00 2	— 0	— 0	— 7	— 39	— 19
新型コロナウイルス感染症(入院)	1.00 1	— 0	1.00 1	1.00 1	— 19	— 56	— 120	
急性呼吸器感染症(ARI)	66.33 199	51.67 155	40.00 120	43.33 130	— 2,747	— 8849	— —	
全数報告	レジオネラ症	1	0	0	0	1	5	3

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	解説
RSウイルス感染症	RSウイルス感染症 の流行が見られ、 インフルエンザ は今後の動向に注意が必要です。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)は前週と比較して減少しました。本県における第13週の定点当たり報告数は7.77と、 警報終息基準である10を下回ったため、第5週に再発令した警報は解除となります。 減少傾向ですが、B型の報告が続いており、今シーズンで既に感染した方も再感染する可能性があるため、注意が必要です。引き続き感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して増加しましたが、 県(県内総数)は前週と比較して減少しました。 直近2年間の同時期より低い水準にあるものの、他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
A型肝炎	本県で 1例の届出がありました。 A型肝炎は、A型肝炎ウイルスによる感染症で、主に経口感染や接触感染で伝播し、2～7週間の潜伏期間の後、発熱、倦怠感、肝機能低下、黄疸等を生じます。高齢者は重症化する傾向があります。衛生状態の悪い海外地域の生水を飲んだり、加熱処理されていない食物等の摂取で感染するため、十分に注意しましょう。また、ワクチンが有効なため、渡航前や周囲で感染が生じた場合は、ワクチン接種を検討しましょう。
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	本県で 1例の届出がありました。 本疾患は、カルバペネム系抗菌薬に対し耐性を獲得した細菌に感染することで生じ、免疫力が低下したり、抗菌薬を長期間使用している患者が感染する場合があります。手術部位や傷口からの感染や、カテーテルを介しての感染等、感染経路は多様です。健康な人への感染はほとんど生じませんが、免疫力が低下している方は重症化することがあるため、通常の院内感染対策と共に、ドアノブ等の手が触れる場所の消毒や、環境整備を行いましょう。
麻しん	県内の発生は確認されていませんが、国内での感染者数の増加が続いています。麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。旅行や多くの人が集まるイベントに参加する際は、麻しんがいつどこで発生しているか等、発生情報を事前に収集し、また、海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染防止を心がけましょう。

会食や人の移動が増える時期です。引き続き急激な感染拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど体調管理に留意することや、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策をお願いします。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第13号